



Mutsu General Hospital

むつ総合病院



研修医日記

作成者：立石 哲則（2年次）

最後の日記となりました！2年次研修医の立石です。

むつでの研修も残すところあと一か月となりました。思い返せば本当にあっという間の2年間でした。

働き始めは学生の延長のような感覚で、何をやるにもビビったり、自信のない毎日で上の先生の真似をするところから始めたりしましたが、2年も経つとそれなりに落ち着いて、考えたり対処することが出来るようになった気がします。むつ総合病院は、各科の医師同士の繋がりが強く、どの診療科に所属していても他科の先生方にすぐ相談することが出来ました。迷ったり悩んだ時にすぐ相談できる上司がいるというのはとても心強く、日々勉強の我々にとってはとても学びやすい環境だったな、と思います。

看護師さんや技師さんの多くはこの下北の地出身の方で、スタッフ同士はもちろんですが患者さんも含めて大きなコミュニティの中にいるような感覚になりました。それだけ、むつ総合病院が地域に根差した、地域密着型の病院なんだろうと改めて実感しております。

医学的なことも含めて、この2年間で本当に多くのことを学び得ました。素晴らしい上司や同期・後輩、スタッフの方々との素敵な出会いもありました。患者さんの笑顔に励まされたり、感動したりした日もありました。この初期研修の2年間の経験を忘れず、これからも患者さんに寄り添える、優しく頼れる医師になれるよう頑張ります（春からは青森県立中央病院 総合診療部に勤務することとなりました）。

これまでお世話になったスタッフの皆さん、先生方、たくさん学ばせていただいた地域の皆さん。本当にお世話になりました。

機会がありましたら、またどこかで、お会いしましょう。



下北の2年間でのベストショット。むつ横浜の菜の花畑にて。

※日記の作成日と当ページへの掲載日は異なる場合があります。